

2025年度
(株)クボプラ 環境経営レポート
2025年1月1日～2025年12月31日



株式会社 クボプラ

発行：2026年4月2日

1. 組織の概要

(1) 事業所及び代表者氏名

事業所名 : 株式会社クボプラ

代表者氏名 : 代表取締役 久保 安宏

(2) 所在地 : 〒198-0052

東京都青梅市長淵 4-239-2

(3) 環境管理責任者氏名 : 久保 巨京

連絡先 T E L : 0428-24-5511 F A X : 0428-24-4121

E-mail : kubo@kubopura.con

(4) 事業概要 : プラスチック加工業 (切削、熱曲げ、溶接、接着、その他)

(5) 事業規模 (2025年12月現在)

・資本金 : 2,000万円

・従業員数 : 32名

・敷地面積 : 666㎡

・床面積 : 本社工場 764㎡ / 第二工場 507㎡

2.環境経営方針

環境経営方針

基本理念

当社は奥多摩の雄大な山々に抱かれ、多摩川、蛍の舞う清流に臨む豊かな自然環境に在ります。地球環境の保全が人類に於ける重要課題のひとつであることを認識し、この美しい自然環境を守り調和し、地域社会と共存していく努力を行うことが企業としての社会的責任であると考え、環境に配慮した事業活動に積極的に取り組みます。

行動指針

1. 樹脂加工を中心とした事業活動の中で、環境の保全と汚染の防止に継続的に努める。
2. 環境関係法規制、条例、協定その他の要求事項を遵守する。
3. 製品含有化学物質管理に関連する法規制、条例および顧客の要求事項を遵守する。
4. 在庫管理の徹底化と環境に優しい資材の調達及び効率的な利用に努め、廃棄物の削減と省資源化を推進する。
5. 製造工程の効率化を図り、全社一体となって省エネルギーに努める。
6. 廃棄物と再生可能品との分別を徹底し、資源の有効活用、リサイクルに取り組む。
7. 環境への取り組みを環境経営レポートとして取りまとめ公表します。

2025 年 1 月 20 日
株式会社クボプラ

代表取締役

久保 安宏

3. 実施体制

【制定日】 2011年6月28日

【改訂日】 2025年5月12日

環境経営推進体制

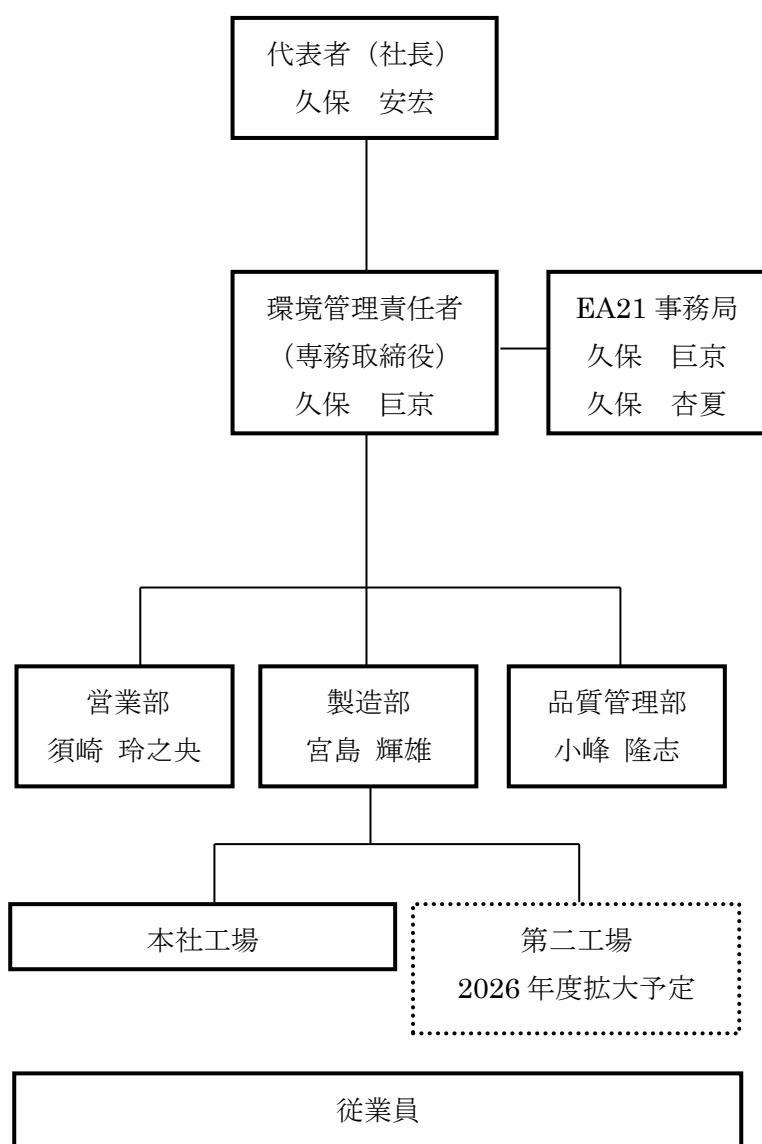
代表者	環境管理責任者
久保 安宏	久保 巨京

- ・代表者による経営における課題とチャンスの取りまとめ
- ・環境経営方針の策定、改正
- ・システムの評価と見直し
- ・環境管理責任者の任命
- ・経営資源の投入

- ・全体計画の立案及び評価
- ・環境関連文書作成
- ・環境管理推進
- ・進捗フォロー
- ・指示・伝達・意見聴取
- ・環境教育推進
- ・苦情・要望の渉外

- ・活動計画の実行推進
- ・情報伝達
- ・環境意識の向上
- ・改善提案の発掘推進

- ・環境経営方針の理解と環境へ取組の重要性の理解
- ・決められた事を守り、自主的、積極的に環境活動への参加



4. 過去3年間の実績

	2022 年度	2023 年度	2024 年度
二酸化炭素排出量(kg-CO2)	94608	112072	115970
電力使用量(kwh)	196544	235779	244245
ガソリン使用料(ℓ)	2111	2308	2371
総排水量(m ³)	303	294	317
産業廃棄物排出量(t)	20.12(t)	17.69(t)	19.72(t)

株クボプラ 環境経営目標

2026年3月30日

代表者	環境管理責任使者
久保 安宏	久保 巨京

大項目	項目名	2025 度	2026 度	2027 度
【1】 二酸化炭素削減	二酸化炭素排出量削減	2024 年度実績に対し、1%削減	2025 年度実績に対し、1%削減	2026 年度実績に対し、1%削減
	① 電力使用量の削減	2024 年度実績に対し、1%削減	2025 年度実績に対し、1%削減	2026 年度実績に対し、1%削減
	② ガソリン使用量の削減	2024 年度実績に対し、1%削減	2025 年度実績に対し、1%削減	2026 年度実績に対し、1%削減
【2】 廃棄物削減	① 産業廃棄物（廃プラスチック）の削減	2024 年度実績に対し、1%削減	2025 年度実績に対し、1%削減	2026 年度実績に対し、1%削減
【3】 節 水	水使用量の削減	2024 年度実績に対し、1%削減	2025 年度実績に対し、1%削減	2026 年度実績に対し、1%削減
【4】 化学物質管理	樹脂接着用溶剤（微量）	適正管理		
【5】 グリーン購入	文房具類（事務用品）	エコマーク品を優先的に購入		

5. 2025 年度の環境経営計画（具体的取組内容）

		項目	活動計画 - 具体施策 -
削減項目	二酸化炭素排出量	1.電力使用量の削減	①昼間不用時の消灯、電源 OFF ②PC のスリープモード設定 ③空調温度の適温化（冷房：28℃/暖房：20℃）
		2.ガソリン使用量の削減	①制限速度の厳守 ②アイドリングストップ ③タイヤ空気圧の適正化 ④納品運搬経路の効率化
	産業廃棄物（廃プラスチック）の削減		①マニフェストをもとに適正処理 ②不良率の低減
	節水		①節水呼びかけ ② 水道配管からの漏水の定期点検

6. 環境数値目標の実績（2025年1月1日～2025年12月31日の活動結果）

	項目	単位	基準年度 2024年 (1～12月)	2025年度 (1～12月) 目標	2025年度 (1～12月) 実績	達成 状況
削減 項目	二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	115970	114810	130376	△
	電力使用量	kwh	244245	241803	271855	△
	ガソリン使用量	ℓ	2371	2348	3225	×
	産業廃棄物排出量	t	19.72	16.74	23.2	×
	総排水量	m ³	317	313.8	328	△
管理 項目	化学物質管理	適正管理				○
	グリーン購入	文房具類はエコマーク品を優先的に購入				○

（注記）1.購入電力の二酸化炭素排出係数は下記2社の数値を採用とした

青梅ガス(株)：0.453 kg-CO₂/kwh

東京電力エナジーパートナー(株)：0.441 kg-CO₂/kwh

2.達成状況：○(達成)、△(80%以上達成)、×(未達成)

7. 環境経営計画の取組み結果とその評価、次年度の取組み内容

7.1 環境経営計画の取組み結果と評価

	項目	環境活動結果の評価
削減項目	二酸化炭素排出量の削減	今年度目標を概ね達成
	電力使用量	引き続き電力の効率化を図り、削減効果の期待できる設備があれば導入を検討する。
	ガソリン使用量	第2工場への定期便の運行による資材運搬頻度が想定以上に増加。また、営業人員の増加により、新規顧客への訪問・打ち合わせ・納品の回数も増え、各担当者が個別に車両を出すケースが散見された。 第2工場の定期便も、不要な際は運行しない事とする。また、遠方とのお客様とはWEB会議も積極的に導入、納品に関しては頻度を減らすよう納期調整し纏めて納品する事とする。
	産業廃棄物排出量の削減 (廃プラスチック)	生産量の増加が削減目標値を大きく上回ってしまった大きな要因となるが、その他、長期滞留していた不良在庫や端材を順次廃棄した事も原因と考えられる。 産業廃棄物の削減に対して、端材の管理方法の徹底、無駄な材料発注をゼロにし、まだ利用出来るサイズの端材を有効活用する事とする。
管理項目	節水	今年度目標を概ね達成
	化学物質管理	適正管理
	グリーン購入	文房具類はエコマーク品を優先的に購入

6.2 次年度の取組み内容

EA21 環境経営システムは基本的に次年度も当初の計画に基づき実施する。

8. 環境関連法規等の遵守状況の確認および評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

当社に関わる環境関連法規等の遵守評価の結果、違反はありませんでした。

なお、関係当局よりの違反等の指摘は過去3年間ありません。

	法規制等名称	義務事項	遵守評価
1	廃棄物処理法	一般廃棄物 ・市の分別回収に従う	違反無し
		産業廃棄物 ・産業廃棄物置場の保管基準の順守 ・産業廃棄物の委託契約の締結 ・産業廃棄物マニフェストを収集運搬/処分委託業者へ交付し回収する ・マニフェストの前年度交付状況の報告	違反無し
2	資源有効利用促進法	・使用済みPCの販売事業者への引き渡し	対象案件なし
3	家電リサイクル法	・買替、廃棄等業者引渡し時リサイクル料の支払	違反無し
4	フロン排出抑制法	・管理第1種特定製品の点検(簡易点検、定期点検)(法16条)	違反無し

9. 代表者による全体評価と見直しの結果

代表者(社長)による見直しの内容	
1)環境経営方針	現環境方針を進める
2)環境経営目標及び計画	環境経営計画を基に、基準年度実績に対して削減目標達成を目指す
3)社会・取引先・法律等への対応	外部からの要請もないことから現状のまま対応する
4)システムのその他の要素	前年度構築したEA21環境経営システムを現状のまま運用する

以上